

Society 5.0

—ともに創造する未来—

「技術的变化」「経済・地政学的変化」「マインドセットの変化」など、急激な変化の波が世界に迫っている。大きく変化する時代には、**変化をチャンスと捉えて、想像力によって未来を切り拓く**視点が欠かせない。

Society 5.0は訪れる未来の予測ではなく、創りたい未来を明るく語る日本発のコンセプトである。

本提言は、Society 5.0のコンセプトを定義し直すと共に、日本の目指すべき方向性や行動指針を示したものだ。

第1章 Society 5.0の目指すもの

■ デジタル革新

デジタル技術とデータの活用が進むことで、生活や産業構造、雇用など社会のあり方が大きく変わる。技術は使い方次第で明るい未来にも暗い未来にもつながり得る。明るい未来に導くのが人の想像力。

| | |
|--------|---|
| IoT | あらゆるモノがインターネットに接続され、センサーなどからリアルタイムにデータが収集できるようになる。 |
| AI | 人間が行ってきた業務の多くは、AIによって自動化することが可能となる。AIの本質は「能力の流通とコモディティー化」である。 |
| ロボット | AIの能力は、ロボットによってフィジカル空間で発揮される。 |
| 分散台帳技術 | ブロックチェーンなどの分散台帳技術は、効率的な取引や追跡可能性の向上に大きな影響を与える。 |

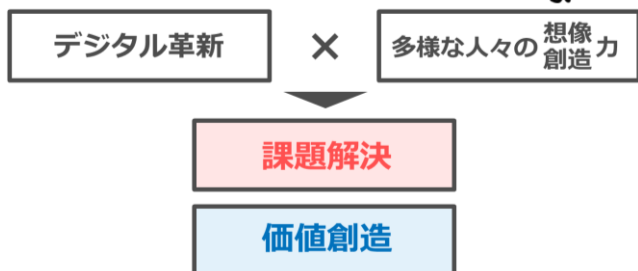
■ Society 5.0とは創造社会

デジタル革新をきっかけに到達する、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会。Society 5.0では、デジタル革新を人々の多様な幸せ追求のために活用すべき。

人々には技術をいかに課題解決・価値創造に活用するかを想像する力とそれを実現する創造力が必要。

Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。

Society 5.0



■ Society 5.0のもたらすもの

Society 5.0では、さまざまな制約から解放され、誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会を目指していく。

- 規模や効率性のみを求めるのではなく、課題の解決や新たな価値創造に重きを置く。
- 均一性ではなく、多様性を重んじる。
- 格差を放置せず、富や情報を分散・循環させる。
- 多様化・分散化により、社会の強靭性を高める。
- 環境負荷を減らし、自然と共生する。



■ Society 5.0 for SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

社会課題解決や自然との共生を目指すSociety 5.0は、国連が採択したSDGsの達成にも貢献できる。

- 都市・地方：人と自然が共生する自立した豊かな地方実現、多様なライフスタイルを実現
- 防災・減災：デジタル技術を活用したインフラ維持管理、組織を越えた迅速な情報共有
- 金融：社会全体への効率的な資金配分
- 行政：誰もが挑戦できるようセーフティネット確保
提言では、エネルギー、ヘルスケア、農業・食品、物流、ものづくり・サービスについても具体像を例示。

■ 日本の目指すべき方向性

Society 5.0を実現する上で、日本が目指すべき姿は、デジタル革新を先導し、多様性を内包した、成功のプラットフォーム。多様な背景を持つ人々が日本で成功のきっかけをつかめるようにする。



■ 企業が変わる

産業の高付加価値化

SDGsへの貢献を通じて社会的価値の増大を図ると共に、一人ひとりが創造し、享受する価値を増大。

産業の新陳代謝・構造変革の促進

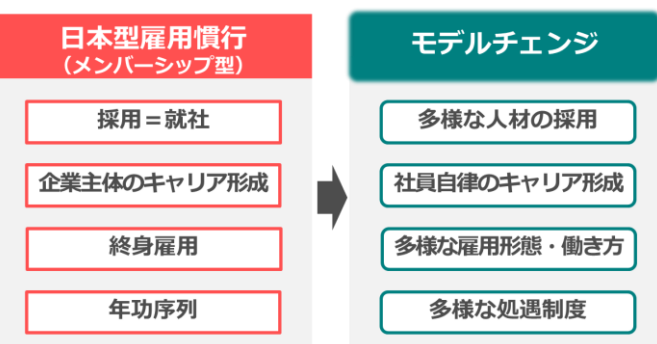
社会全体で活力を生み出し続ける観点から、既存産業の保護ではなく、スタートアップの振興に大きく軸足を移すべき。

大企業による「出島」

会社本体から独立し、離れた「出島」形式の異質な組織を立ち上げ、自由にイノベーションを起こす。

「日本型雇用慣行」のモデルチェンジ

終身雇用や年功序列を基盤とした「日本型雇用慣行」を社会の変化に応じてモデルチェンジし、多様な採用や働き方を促す。



Society 5.0は訪れるものではなく、創りあげていくもの。

経団連は、Society 5.0実現の旗振り役として、自らも大きく変わり、日本の経済社会の変革を主導していく。

今後、経団連を挙げて具体策を議論・提示・実行し、国内外のさまざまなステークホルダーとともに、Society 5.0の具体化に向けて進んでいく。

■ 人が変わる

求められる人材

AIやデータを使いこなして課題を解決できる人材、多様なチームでリーダーシップを発揮できる人材が必要。

文理分断からの脱却

文系・理系の区分をなくし、文理を隔てずリベラルアーツを学ばせるとともに、AI・数学・情報科学・生命科学等は全ての大学生に必修化。

平等主義からの脱却

日本的平等主義から脱却し、各領域で抜きん出た才能を有するトップ人材やエリート育成。

リカレント教育

一度、社会に出てからも、時代の変化に合わせていつでも何度でも学びなおすことができる環境を整備。

■ 行政・国土が変わる

デジタル・ガバメント

行政のデジタル革新を断行。

国土の分散化による多様性の推進

中央から地方に財源と権限を大胆に移譲し、それぞれの地方の強みを活かし、自律的に地方創生。

■ データと技術で変わる

フィジカル空間からサイバー空間への展開

フィジカル空間での領域知識やリアルデータを活かし、サイバー空間への展開をいち早く行う。

多種多様なデータの共有

データ覇権をめぐる各国の争いが激化する中、日本は安全・安心なデータ活用を可能にするデータ取り扱いのルールを世界に発信すべき。

「選択と集中」から「戦略と創発」へ

これまでは限られた財源から競争力のある研究開発を行うために、重要領域を特定し資源を集中投下する「選択と集中」に基づいた技術政策が行われてきたが、「戦略と創発」へ転換し、想定外の研究の創発を期待すべき。

